

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 12年10月)

～コア CPI 上昇率は6ヵ月ぶりにマイナス圏を脱する

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI は6ヵ月ぶりにマイナス圏を脱する

総務省が11月30日に公表した消費者物価指数によると、12年10月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比0.0%（9月：同▲0.1%）となった。コア CPI は12年5月から前年比で小幅なマイナスが続いていたが、6ヵ月ぶりにマイナス圏を脱した。事前の市場予想（QUICK 集計：▲0.1%、当社予想は0.0%）を上回る結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.5%（9月：同▲0.6%）、総合は▲0.4%（9月：同▲0.3%）となった。

コア CPI の内訳をみると、電気代（9月：前年比7.3%→10月：同5.8%）、ガス代（9月：前年比3.4%→10月：同2.9%）の上昇幅は縮小したが、ガソリン（9月：前年比1.8%→10月：同4.2%）、灯油（9月：前年比1.4%→10月：同4.9%）の上昇幅が拡大したため、エネルギー価格の上昇率は9月の前年比4.3%から同4.6%へと若干拡大した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.39%（9月は0.37%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.07%（9月は▲0.02%）、その他が▲0.33%（9月は▲0.45%）であった。

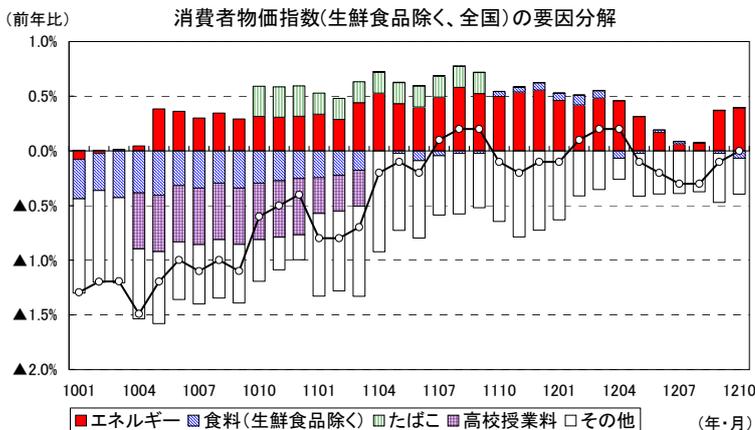
コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.39%（9月は0.37%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.07%（9月は▲0.02%）、その他が▲0.33%（9月は▲0.45%）であった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
11年 4月	▲0.4	▲0.2	▲1.1	▲0.7	▲0.5	▲1.0
5月	▲0.4	▲0.1	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.6
6月	▲0.4	▲0.2	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.7
7月	0.2	0.1	▲0.5	0.1	▲0.1	▲0.4
8月	0.2	0.2	▲0.5	▲0.2	▲0.2	▲0.6
9月	0.0	0.2	▲0.4	▲0.3	▲0.1	▲0.4
10月	▲0.2	▲0.1	▲1.0	▲0.5	▲0.4	▲1.0
11月	▲0.5	▲0.2	▲1.1	▲0.9	▲0.5	▲1.2
12月	▲0.2	▲0.1	▲1.1	▲0.4	▲0.3	▲1.1
12年 1月	0.1	▲0.1	▲0.9	▲0.2	▲0.4	▲1.1
2月	0.3	0.1	▲0.6	▲0.2	▲0.3	▲1.1
3月	0.5	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.3	▲1.0
4月	0.4	0.2	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲1.0
5月	0.2	▲0.1	▲0.6	▲0.5	▲0.8	▲1.3
6月	▲0.2	▲0.2	▲0.6	▲0.6	▲0.6	▲1.0
7月	▲0.4	▲0.3	▲0.6	▲0.8	▲0.6	▲1.0
8月	▲0.4	▲0.3	▲0.5	▲0.7	▲0.5	▲0.9
9月	▲0.3	▲0.1	▲0.6	▲0.7	▲0.4	▲1.1
10月	▲0.4	0.0	▲0.5	▲0.8	▲0.4	▲1.0
11月	-	-	-	▲0.5	▲0.5	▲0.9

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

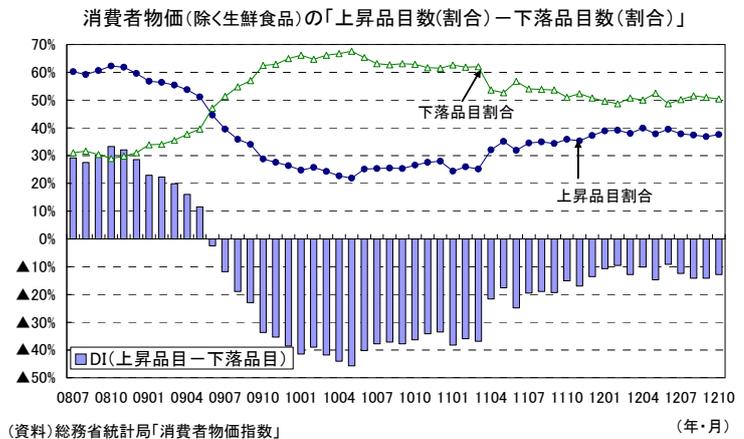


(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

2. 物価下落品目数の割合が4ヵ月連続で50%を上回る

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、10 月の上昇品目数は 197 品目（9 月 193 品目）、下落品目数は 264 品目（9 月は 267 品目）となった。

上昇品目数の割合は 37.6%（9 月は 36.8%）、下落品目数の割合は 50.4%（9 月は 51.0%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲12.8%（9 月は▲14.1%）であった。物価下落品目数は前月から若干減少したものの、全体に占める割合は 4 ヵ月連続で 50%を上回った。



3. コア CPI 上昇率は再びマイナスとなる公算

12 年 11 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲0.5%（10 月：同▲0.4%）となり、下落率は前月から 0.1 ポイント拡大した。事前の市場予想（QUICK 集計：▲0.4%、当社予想は▲0.5%）を下回る結果であった。

ガソリン（10 月：前年比 3.4%→11 月：同 2.4%）、灯油（10 月：前年比 4.1%→11 月：同 3.0%）、電気代（10 月：前年比 12.9%→11 月：同 11.7%）、ガス代（10 月：前年比 3.1%→11 月：同 1.9%）の上昇幅がいずれも縮小したため、エネルギー価格の上昇率は 10 月の前年比 8.2%から同 7.0%へと縮小した。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.41%（10 月は 0.48%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.21%（10 月は▲0.21%）、その他が▲0.70%（10 月は▲0.67%）であった。

コア CPI 上昇率は 6 ヵ月ぶりにマイナス圏を脱したが、ガソリン、灯油などのエネルギー価格の上昇率が縮小に向かうこと、景気悪化に伴う需給面からの下押し圧力が高まることなどから、11 月以降は再びマイナスとなる可能性が高いだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保证するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。